

# INFORMATION [期間：平成24年-25年]

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2017-10-04 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: メールアドレス: 所属:
URL	<a href="http://hdl.handle.net/2297/33594">http://hdl.handle.net/2297/33594</a>

## INFORMATION

【期間：平成24年～25年】

## 「食」による生活習慣病予防医学の展開

第3回脳・肝インターフェースメディシン研究センターシンポジウム、「食」による生活習慣病予防医学の展開を開催。基調講演は、不二製油(株) フードサイエンス研究所・河野光登先生による「不二製油のご紹介と生理機能研究への取り組み」、特別講演は星薬科大学薬理学・成田年教授による「エピジェネティクスによる生命現象と後天的疾患：環境による修飾」が予定されている。

日 時：2012年12月6日(木) 午前9時～午後6時

場 所：KKRホテル金沢

主 催：「食」による生活習慣病予防医学の展開研究グループ(代表：井上 啓)

## 脳情報分子学セミナー

テーマ：体液恒常性の脳内機構

講演者：野田 昌晴先生(基礎生物学研究所 統合神経生物学研究部門・教授)

開催日時：平成24年12月7日(金) 午後5時30分～

開催場所：金沢大学医学類 G棟 第4講義室

講演内容：体液中のNaレベルの維持(Na恒常性)は生命の維持に不可欠であり、体液のNaレベルと浸透圧は脳の中で常に監視されている。Naチャンネルの一つNaxは、脳の中で血液脳関門を欠く感覚性脳室周囲器官のグリア細胞に発現し、in vitroでは細胞外Naレベルが約150 mMを越えると開口する。我々は、最近、原因不明の本態性高Na血症の患者の血清中にNaxを認識する自己抗体が存在しているケースを見出した。この患者は、神経節細胞腫が見つかり摘出したが、その後も血中Naレベルが高いにもかかわらず口渇感がなく、抗利尿ホルモン(バソプレッシン)も異常に低値であった。このケースは、腫瘍の形成によってNaxに対する自己抗体の産生が誘発され、感覚性脳室周囲器官における持続的組織傷害の結果、高Na血症が発症した(腫瘍随伴性神経疾患)と推察された。

## 脳・肝インターフェースメディシン研究センターセミナー/MRTプログラムセミナー

後 援：金沢大学十全医学会

日 時：平成25年2月12日(火) 午後4:00～5:00

場 所：医学類F棟1階 修士セミナー室

演 者：Fawaz G. Haj, PhD Associate Professor, Department of Nutrition, University of California, Davis, U.S.A

タイトル：Novel insights into the metabolic functions of protein-tyrosine phosphatase 1B

連絡先：脳・肝インターフェースメディシン研究センター 環境応答学部門 長田直人(076-234-4207)

## 第23回金沢歯科口腔外科懇話会

金沢歯科口腔外科懇話会は、平成3年に金沢大学歯科口腔外科研修会としてスタートし、毎年回を重ね今年で23回になります。この会は金沢大学附属病院歯科口腔外科に患者さんを紹介して下さった先生と同窓の先生が集まり、歯科口腔外科の臨床と研究に関する研修を行う事を目的としています。例年、金沢大学附属病院歯科口腔外科から20題の一般演題と特別講演を予定しています。本年の特別講演は富山大学歯科口腔外科教授の野口誠先生にお願いしました。「口唇口蓋裂の治療と再生医療の応用」と題して、治療が難しい口唇口蓋裂児や再生医療についての臨床や研究のとても興味深いお話が聞けます。また、長年アジア地域の口唇口蓋裂治療のボランティアにも参加されています。

日 時：平成25年2月16日(土)

場 所：KKRホテル金沢

お問い合わせ：金沢大学歯科口腔外科医局 TEL：076-265-2444

**脳・肝インターフェースメディシン研究センターセミナー／MRTプログラムセミナー**

日 時：平成25年2月21日(木) 午後4:00~5:00

場 所：医学類B棟1階 小会議室

**●講演1**

演 者：今村武史 准教授（滋賀医科大学 薬理学講座）

演 題：「インスリン抵抗性環境における脂肪細胞分化の障害機序 - 自然発症糖尿病サルへの幹細胞移植による検討 -」

**●講演2**

演 者：木村郁夫 助教（京都大学大学院 薬学研究科 薬理ゲノミクス分野）

演 題：「腸内細菌による短鎖脂肪酸受容体を介したエネルギー調節機構」

連絡先：脳・肝インターフェースメディシン研究センター 生体統御学部門 井上 啓 (076-265-2840)

**第83回日本衛生学会学術総会**

第83回日本衛生学会総会は、平成25年3月24日から3月26日の3日間、金沢大学鶴間・宝町キャンパスと金沢美術工芸大学のキャンパスで両大学の協賛を受けて開催されます。金沢における衛生学会の開催の歴史を振り返りますと、昭和19年に大谷佐重郎先生、昭和45年に石崎有信先生、平成6年に岡田晃先生が会長を務められておられます。19年ぶりに金沢大学で開催することになります。

本学会は、生活・環境・健康管理の現場に根ざし、基礎研究から実学的な研究活動に関する社会医学の推進の母体として大きな役割を果たしてきました。昨年の東日本大震災およびその後の原発事故による放射能汚染という甚大な被害を経験し、改めて環境保健と予防医学を基盤に本学会の役割を確認したいと思っています。その思いを込めて、今総会のメインテーマを、「生を衛る学問の使命-環境と暮らしの再生を目指して-」としました。さらに、前学会で掲げられた「社会医学のグローバル化」についても引き続き追究していきたいと思っています。

第83回日本衛生学会学術総会 会長 城戸 照彦(金沢大学医薬保健研究域保健学系 教授)